

指定指示「この」における談話上の特徴 －「その」との対比から－

梅木俊輔

東北大学大学院文学研究科

umeki0824@hotmail.com

1. 問題の所在

日本語の文脈指示（指定指示¹）の中に、「この」を使う場合と「その」を使う場合とがある。近年の指示詞研究（庵，2007，2008，金水，1999，堤，2012等）は、照応という概念操作（それ自体では表せない意味を充足すること）が自明の出発点となっている。本発表では、「この」の談話上の本質が指示語の指示対象を探索させることにあるのではなく、既出情報として定義された特定の情報に注意を向けさせる性質にあることを述べる。

2. 先行研究

2.1 庵の説

先行詞を言い換えた場合(1)、(2)や遠距離照応の場合(3)は、「この」しか使えない(庵，2008.)。

(1) 私はクリスマスにキリスト教の洗礼を受けたので、この（／*その／*φ）祝日には特別の思いがある。

(2) 私は紅茶が好きだ。この（／*その／*φ）飲物は疲れをいつも癒してくれる。

(3) 東京都板橋区のマンション建設計画で、建築主の住友不動産（本社・新宿区）が1級建築士事務所「エスコン」（本社・同）に対し、近隣住民対策として、弁護士にしか認められていない「法律事務」の代行を委任し、エ社はそれを実行したとして住民21人が23日、両社を弁護士法違反（非弁活動の禁止）容疑で東京地検に告発した。

首都圏では、建築主が第三者に住民対策を依頼するケースが増えており、専門の近隣対策会社も現れている。告発は近隣対策の“下請け任せ”に警笛を鳴らすものといえそうだ。

この（／*その）マンションは、板橋区加賀の出版跡地約9760平方メートルに地上15階（高さ約44メートル）、地下2階を建てる計画で昨年9月下旬、近隣住民に告知された。

（庵，2008，p.130-131.）

しかし、発表者が調査したところ²、「言い換えあり」>「言い換えなし」は、「この」だけとは言えない結果となった。一方、遠距離照応に関し、「この」は「その」より遠方の先行情報との照応が可能と言える。なお、「この」と「その」を単に照応と一括りにすべきかについては後述する。

- (4) |事故|を|目撃|、|息子|を|すぐ|別|の|場所|に|運ぶ|など|親切|に|救助|し|て|いただい
|た|[五]、[六十代]の|女性|に|お礼|を|言い|たく|捜|して|いま|す|。| |(その)|方
|(は)|どこ|か|に|連絡|す|べく|、| |「|待ち|よっ|て|よ|」|と|その|場|を|離れ|まし
|た|。
(高知新聞, 2005/7/23)
- (5) |「|日本|に|ある|大使館|は|日本|が|警備|し|、|外国|の|日本|大使館|は|(その)|国
|(が)|警備|する|と|いう|相互|主義|の|問題|が|ある|」| |(防衛|庁|幹部|)|の|も|事
実|だ|。
(読売新聞, 2003/12/4)

2.2 堤の説

堤 (2012) は、形式意味論の枠組みに基づき、ある名詞句 (a) が世界の対象物を直接指示するとき、その名詞句を指示的であるとし、意味解釈において変項を導入するとき、その名詞句を非指示的であるとする。(7) において、「コノ者」と言えるためには、話し手はある特定の人物を念頭において発話しなければならず (=話し手にとって指示的)、「ソノ者」は「1 時間後に受け取りに来る会社の者」という属性を持っていれば誰でもよい (=意味解釈に変項を導入する非指示的な表現)。

- (7) 1 時間後に会社の者が受け取りに来ますから、その／この者に渡してください。

(堤, 2012, p. 36.)

しかし、堤の説は例 (8) のメタ用法 (田窪, 2010) をうまく扱えない。(8) は、メタ用法で述べられていることから、特定の噂を指しているわけではない。

- (8) ここキューバではもともと人々がチスモーソ Chismoso (噂好き) である上に、テレビ・ラジオ・新聞といったメディアが国営で、流す情報も、うまくいえませんが同じトーンであるためか、日常のおしゃべりの中の噂というのが一つの大きな情報源になっています。(省略) 私もこの噂というものは一応は聞いておきますが、自分の目で見るとまではなかなか信じません。
(Web サイト『西夏の CUBA 自転車日記』³, 2012/09/30 閲覧)

メタ用法 (田窪, 2010)

「記号の名前だけが定義されており、記号の意味、指示対象のうちどちらか、あるいは両方が定義されていない要素を表す形式と考えられる。(省略) 記号のメタ用法は、固有名詞に限ったことではなく、すべての品詞、すべての句で見られる。」(田窪, 2010, p. 254.)

- (9) A: ここで右にひねるんだ。B: 右にひねるって、どうやればいいの。

2.3 金水の説

金水 (1999) は、「談話に先立って、言語外世界にあらかじめ存在すると話し手が認める対象を直接指し示し、言語的文脈に取り込むこと」(金水, 1999, p. 68.) を直示とし、「コ系列の場

合は、指示対象は言語的文脈によって提示されはするが、言語的文脈は指示対象を代表しているだけであって、言語表現とは独立に、あらかじめ存在するものとして捉えられている。」(金水, 1999, p. 80.) と述べる。

- (10) a. 五歳の誕生日に真智子は両親に熊のぬいぐるみを買ってもらった。この友人を、真智子は一生大切にした。
- b. 五歳の誕生日に真智子は両親に熊のぬいぐるみを買ってもらった。??その友人を、真智子は一生大切にした。

(10) a は、「ぬいぐるみ」であるような対象（一般的なフレームに基づき与えられたカテゴリー）を、眼前に存在するかのように指し示すので、別のカテゴリーとなる「友人」（真智子から見た世界のフレーム）が与えられても指示が成立する。

しかしながら、金水（1999）による、話し手が言語的文脈とは独立に指示対象の存在を前提としているか否かという違いは、既成の文の違いを説明する上で有効であっても、新たに「この」と「その」の選択をしようとする者にとっては、頭の中のあらゆる情報が（主観的には）存在を前提とするものとして認められ得るのではないか。

3. 本発表の主張

通常、受け手はコミュニケーション上（読解も含め）、指示対象がうまく理解できなければ、探索するのであって、成功した意味的充足を既出情報の探索によって得ているわけではない。そして、「この」の談話上の使用を見る限り、意味的充足を指示対象の探索によって得るといった処理が行われているとは思われない。

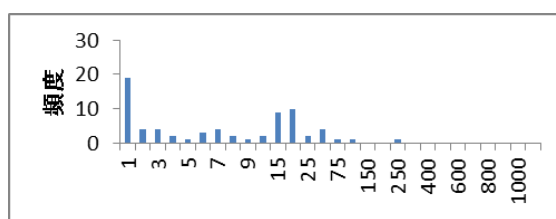
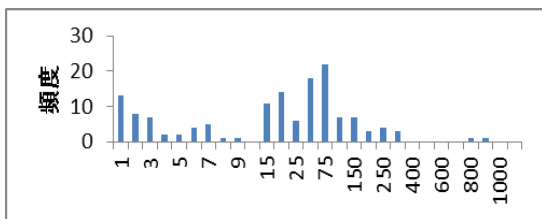


図1 「この・は」 頻度（縦軸）×距離（横軸）

図2 「その・は」 頻度（縦軸）×距離（横軸）

図1は、「この」の使用に関し、遠距離照応がまれではないことを示す。もし、「この」と「その」の双方が探索的処理を行っていると仮定すると、受け手の認知的負担は同じはずで、遠距離照応で「この」だけを使わねばならない理由はない。しかし、「この」が既出情報から取り出した情報そのものへ受け手の注意を引き付けることを目的とするのであれば、照応時の認知的負担を考慮する必要はなくなる⁴。実際、前掲(10) a や先行情報より情報量を増やした(11)は、探索させるという目的にとって最適な形式ではない⁵（同一名詞句の場合より、指示対象が同一であることを認識する負担が高くなる）。談話上の「この」が既出情報から取り出した情報そのものへ受け手の注意を引き付けることを目的とするのであれば、あくまで「既出情報のうち」という

前提さえ保持されていればよい。

(11) 昔むかし、おじいさんが住んでいました。この欲張りのおじいさんは……。

(堤, 2012, p. 183.)

4. まとめ

「この」を用いるのは、談話の既出情報から取り出した情報自体に受け手の注意を向けさせるためであって、「その」のように、指示対象となっている既出情報を再活性化するために用いているのではないと考えられる。

注

1) (指定指示) 昨日寿司を食べたんだが、この／その寿司はおいしかった。

(代行指示) 昨日寿司を食べたんだが、この／その味はよかった。(庵, 2008, p. 130.)

2) 現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ, <https://chunagon.ninjal.ac.jp/login>)、「出版・新聞」からの用例 (313 例)。先行情報が明示された、「この／その」+普通名詞 (形式名詞を含む) / 固有名詞+助詞「は」 / 「が」。先行情報までの距離は、形態素数をカウント。

3) <http://www.maracas.com/seika/diary/part3.html>

4) Lakoff, R. (1974) は、(12) のような This を emotional deixis と呼び、照応 (discourse deixis) とは区別している (Lakoff, R., 1974, p. 347.)。

(12) I see there' s going to be peace in the Mideast. *This* Henry Kissinger really is something!

5) 英語の定冠詞も、先行情報より情報量を増やすと、照応関係は成立しない (池内, 1985, p. 47.)。

(13) I see a rose. *The red rose* is lovely.

参考文献

庵功雄 (2007) 『日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版。

庵功雄 (2008) 「現代日本語における限定詞の機能—「この」と「その」の使い分けの原理—」『日本語文法学会第 9 回大会発表予稿集』 pp. 129-135.

池内正幸 (1986) 『新英文法選書第 6 巻名詞句の限定表現』大修館書店。

金水敏 (1999) 「日本語の指示詞における直示用法と非直示用法の関係について」『自然言語処理』6 (4), pp. 67-91.

Lakoff, R. (1974) *Remarks on this and that*. in Papers from the 10th Regional Meeting, Chicago: Chicago Linguistic Society, pp. 345-356.

田窪行則 (2010) 『日本語の構造—推論と知識管理—』くろしお出版。

堤良一 (2012) 『現代日本語指示詞の総合的研究』ココ出版。